

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	水野 伸子
最終学歴	学 位	専門分野
放送大学大学院修了、 京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程在籍	修士	音楽教育・音楽心理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

学生一人ひとりが本時の「授業の目的を理解する」「学んだことを文字や音で表現する」「結果を考察する」「教員が確認する」このサイクルで構成するプロセスを、毎回の授業で行う自作の授業ワークシートを作成し、教室の音響機器を活用して、全員が満足感・成長感を感じられる授業を目指す。この授業の実現は、建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格」を育成し、校訓「真面目」、教職員の心構え「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事うるの職分なり」を遂行するものである。

(計画)

授業で用いるワークシートは、昨年度に作成したものをもとに改善をする。授業形態は、アクティブラーニング、グループディスカッション、グループワークにまず慣れることから始め、成果を出す経験へとつなげるよう段階的に指導する。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

保育内容（音楽表現）、サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

(後期)

音楽、音楽表現技術、音楽科教育法、サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

音楽づくりの活動において、グループワークを取り入れディスカッションしながら作品を完成させた。さらにそれを発表する段階で、アクティブラーニングの手法をもとに課題にそってさらに良い作品になるよう全員でディスカッションを重ね作品の完成度を高めた。

○作成した教科書・教材

「保育内容（音楽表現）」と「音楽科教育法」において、毎回の授業で使用するワークシートを作成した。これには、本授業で学ぶ内容を文章化した箇所、自分で調べ記入しながら体系化して理解する箇所、それを基に思考を深める箇所、大まかにこの3点が毎回の授業で含まれている。

○自己評価

学生たちが毎回の授業に意欲的に参加する態度、および学生の授業評価からわかるように、設定した目標である「授業の目的を理解する」「学んだことを文字や音で表現する」の2点は概ね達成することができた。しかし、「結果を考察する」という点では深い学びがいつもできたわけではなく改善を要する。

II 研究活動

○研究課題

- ・ 幼児期における拍知覚・認知過程の同期による解明。
- ・ 演奏者一聴取者間に生じる相互作用の同期による解析

○目標・計画

(目標)

- ・ 幼児期における拍知覚・認知過程を、同期実験の結果をもとに論文を完成させ、学会研究紀要へ投稿する。
- ・ 演奏者一聴取者間に生じる相互作用の同期による検討に関する研究の実験を実施し、解析する。

(計画)

2016-2018 年度科学研究費補助金 基盤研究 C「音楽的発達と音楽的文化化の観点から検討した幼小連携リズム指導カリキュラムの開発」(課題番号:16K04176, 研究代表:水野伸子)の成果報告書を提出する。成果をまとめ、日本音楽教育学会研究紀要「音楽教育学」へ論文を投稿、およびメルボルン大学で行われる国際演奏科学・音楽心理学会議(ISPS2019)でポスター発表を行う予定である。

演奏者一聴取者間に生じる相互作用を調べる実験を実施し、データを解析して、日本音楽教育学会、日本音楽知覚認知学会等にて発表し、その成果を論文にまとめる。

○2012年4月から2020年3月の研究業績(特許等を含む)

(著書)

- ・ 水野伸子・石井玲子ほか『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」』教育情報出版、2020年、第2章 第2節 乳幼児の「表現」の発達の特性と発達過程、pp.23-24
- ・ 水野伸子・横井志保ほか『表現(新・保育実践を支える)』福村出版、2018年、pp.81-87
- ・ 水野伸子・石井玲子ほか『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社、2013年、pp.96-97, 101-104

(学術論文)

- ・ 水野伸子・津崎実「幼児期における拍知覚の発達:同期度による検討」(査読付)音楽教育学第49巻第2号、日本音楽教育学会、pp.1-12、2019年度
- ・ 水野伸子・津崎実「幼児期における拍知覚の発達:同期度による検討」日本音楽知覚認知学会平成30年度秋季研究発表会資料、pp.78-81、2018年度
- ・ 水野伸子「生演奏とDVD再生演奏による音楽聴取時における手拍子同期の解析比較」(査読付)音楽教育学第47巻第2号、日本音楽教育学会、pp.13-24、2017年度
- ・ 水野伸子「9歳の壁」論と学童期における音楽的発達との関連-音楽聴取時の手拍子解析から-(査読付)同朋大学論叢第101号、pp.21-40、2016年度
- ・ 水野伸子「生演奏とDVD再生演奏による音楽の内容の知覚感受比較-鑑賞後に実施したアンケートから-(査読付)同朋福祉第22号、pp.93-107、2015年度
- ・ 水野伸子・安藤久夫・吉田昌春「児童の音楽的拍感の獲得-授業行動分析装置改良に伴う手拍子情報直接取得により-」(査読付)岐阜女子大学紀要第44号、pp.53-61、2014年度
- ・ 水野伸子「児童の西洋的リズム感覚における発達の検討-8ビート、シンクペーションに着目して」岐阜女子大学初等教育学研究報告vol.3、pp.25-30、2013年度
- ・ 水野伸子「教師の捉える現代の子どものリズム感とその指導」(査読付)岐阜女子大学紀要第43号、pp.53-61、2013年度
- ・ 水野伸子「音楽鑑賞時の手拍子反応にみる幼児の音楽理解」日本教育工学会研究報告集JSET12-3、pp.153-160、2012年度

- ・水野伸子「コード伴奏を自ら弾き歌いする能力の育成ーピアノ伴奏法初級テキストの改善」岐阜女子大学初等教育学研究報告 vol. 2、pp. 29-38、2012 年度
- ・水野伸子「音楽聴取反応分析への転用における授業行動分析装置の有効性の検討及び改良について」(査読付) 岐阜女子大学紀要第 42 号、pp. 21-28、2012 年度
- ・水野伸子「調性感・ハーモニー感の獲得による幼児の音楽理解」Open Forum 放送大学大学院教育研究成果報告書、pp. 48-53、2012 年度

(学会発表)

- ・ Nobuko Mizuno, Minoru Tsuzaki, The Perception of the Musical Beat among Japanese Young Children: Aspects of the Degree of Synchrony, International Symposium on Performance Science, Melbourne Conservatorium of Music, 2019 July 19.
- ・水野伸子「「幼児期における拍の知覚発達-音楽聴取時の手拍子同期度による検討-」日本音楽教育学会第 48 回大会 (岡山大学)、2018 年度
- ・水野伸子・津崎実「幼児期における拍知覚の発達：同期度による検討」日本音楽知覚認知学会平成 30 年度秋季研究発表会 (龍谷大学)
- ・水野伸子・植田恵理子・寄ゆかり・本多峰和「アクティブ・ラーニングの導入には何が必要かー音楽表現活動の可能性-」日本保育学会第 69 回大会(東京学芸大学)、2016 年度
- ・Nobuko Mizuno, Musical Enculturation through the Acquisition of Key and Harmonic Knowledge in Japanese Preschool Children The 17 PECERA Annual Conference 2016 (Pacific Early Childhood Education Research Association) (Chulalongkorn University, Ba
- ・水野伸子・安藤久夫・吉田昌春・福本徹「タッピングと手拍子による音楽同期反応の解析比較」日本教育工学会第 32 回全国大会(大阪大学)、2016 年度
- ・水野伸子「幼児の調性感・ハーモニー感獲得にみる音楽的文化」日本音楽教育学会第 47 回大会 (横浜国立大学)、2016 年度
- ・Nobuko Mizuno, The Study on the Acquisition of Musical Perception of Beat among Japanese Children PECERA2015 16th Annual Conference (Pacific Early Childhood Education Research Association) (Macquarie University, Sydney, Australia)
- ・水野伸子, 安藤久夫, 吉田昌春, 福本徹「生演奏と DVD 再生演奏時における手拍子の解析」日本教育工学会第 31 回全国大会(電気通信大学)、2015 年度
- ・水野伸子「異なる演奏形態における音楽の内容の知覚感受比較 -生演奏と DVD 再生演奏に注目して-」日本音楽教育学会第 45 回大会(シーガイアコンベンションセンター)、2015 年度
- ・水野伸子「生演奏と記録媒体における音楽の知覚感受比較」同朋学会 2015 年度学術大会(同朋大学)
- ・水野伸子・安藤久夫・福本徹「同期反応による児童の音楽的拍感の分析」日本教育工学会第 30 回全国大会(岐阜大学)、2014 年度
- ・水野伸子「児童期における拍感の獲得過程ー音楽鑑賞時に発生する手拍子の解析からー」日本音楽教育学会(聖心女子大学)、2014 年度
- ・水野伸子「手拍子分析にみる音楽的発達の質的転換「9 歳の壁」日本音楽教育学会東海地区例会(愛知教育大学)、2014 年度
- ・水野伸子・安藤久夫・福本徹「幼児の音楽的拍感覚にみるピアジェの直観的思考」日本教育工学会第 29 回全国大会(秋田大学)、2013 年度
- ・水野伸子「幼児期における音楽理解の発達ーリズム的体制化に着目してー」日本保育学会第 65 回大会(東京家政大学)、2012 年度

- ・水野伸子「音楽鑑賞時の手拍子反応にみる幼児の音楽理解」日本教育工学会研究会(京都大学)、2012年度
- ・水野伸子・安藤久夫「行動分析装置を用いた幼児の音楽理解の発達の検討」日本教育工学会第28回全国大会(長崎大学)、2012年度

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・2019-2021年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(課題番号19K02769)研究課題:音楽聴取時における演奏者-聴取者間の相互作用の解析:拍への同期度による検討(研究代表:水野伸子)
- ・2016-2018年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(課題番号:16K04176)研究課題:音楽的発達と音楽的文化化の観点から検討した幼小連携リズム指導カリキュラムの開発(研究代表:水野伸子)
- ・2013-2015年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(課題番号:25381219)研究課題:音楽的発達と音楽的文化化の観点から検討した小学校のリズム指導カリキュラムの開発(研究代表:水野伸子)

○所属学会

日本音楽知覚認知学会、日本音楽教育学会、日本学校音楽教育実践学会、日本教育工学会、保育学会

○自己評価

これまで継続的に進めてきた幼児・児童の音楽的発達研究において一定の成果を残すことができ、概ね達成できた。一つ目は幼児期の拍知覚の発達について論じたものが日本音楽教育学会の紀要『音楽教育学』の査読に通り掲載されたことである。二つ目は、共同執筆した本の「乳幼児の「表現」の発達の特性と発達過程」の節を任されたことにあった。演奏科学・音楽心理学合同による国際学会(International Symposium on Performance Science)において発表し内外の研究者と意見交流できたことも大きな成果であった。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

- ・研究活動委員会の一員として、研究紀要のリポジトリ化の完全実施と遂行の整備を行う
- ・入試委員会のメンバーとして、大学で充実した学生生活を送り勉学に励もうとする意識のある学生の入学を推進する。

(計画)

- ・研究紀要は年に2回発行予定であり。スムーズな投稿、適切な校閲を行う
- ・入試委員会の仕事としては年間通しての入試業務を行う。

○学内委員等

入試委員会委員、研究活動委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員

○自己評価

研究活動委員会のメンバーとして研究紀要「東邦学誌」の電子投稿のシステムを整えリポジトリを開始し、本学の研究・教育成果のアーカイブシステムの構築に向け力を尽くした。「東邦学誌」においては「論文」「研究報告」等、原稿に種類を設けることで、論文としての質を担保することを目指した。入試委員会委員として全ての入試に関わり試験のスムーズな実施を目指し努力し

た。幼小教職委員会委員会、保育士養成課程委員会においては年間通して議事録を作成した。これらにより目標は概ね達成できたと考える。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

保育者・保護者対象とした「音楽の窓から覗いた幼児の発達」講演を実施して、広く研究成果を社会へ還元する

(計画)

保育者対象の講座を実施する。その他、依頼に応じて行う。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

- ・岐阜聖徳学園附属幼稚園研修会講師 2019年10,11,12月
- ・一宮市高齢者の生きがいと健康づくり推進協議会主催「教養講座：みんなで歌おう」講師、2019年8月
- ・愛知県現任保育士研修「中堅前期保育士研修」「保育職の魅力の伝達」、2019年8月
- ・水野伸子「音で遊ぼうーわいわいコンサート」羽島市発達支援センター「発達教室もも」、一宮市立富士保育園にて公演、2018年度
- ・水野伸子「一宮市教養講座：みんなで歌おう」一宮市高年福祉課主催、2018年
- ・水野伸子「子どもはリズムでぐんぐん育つ」(講演)同朋幼稚園、2018年

○自己評価

今年度は、現役保育者へ研究成果を伝える機会があり、保育や幼児教育の現場へ還元することができた。

V その他の特記事項 (学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士(後期)課程の2回生として、音楽心理学の研究を行う。研究の成果を国内外の学会で発表することにより、自身の音楽知覚・認知および音楽教育に関する研究について研鑽を積むとともに、その成果を学生に還元できるよう授業研究も同時に行う。

VI 総括

研究活動においては、科研費を連続して取得できたこと、論文が学会誌へ掲載されたこと等から目標を概ね達成することができたと考え。これらの継続研究の成果を学生への授業等の教育活動や保育者研修の講師としての社会活動において、ある程度還元することができた。今後も研究に励み、その成果を教育活動や社会活動へ還元していきたい。

以上